

ようこそ大学生！6月釧路学生週



毎回、興味深いテーマの下、一週間泊り込みで授業を行ってくださっている学生週。
今回は、「先人に学ぶ」をテーマに、昔の人達が得てきた知識・技術に触れていく授業・行事を展開してくれました。



6月25日(月) 1日目

午前のレクリエーションの後、2年生による「火おこしから考える、原始時代の火」。火はどのように用いられてきたのか説明を受け、実際に火をおこしてみることに。安全対策万全の中、学生お手製の火起こし機(素晴らしい出来栄!)を使って実践開始。「腕が痛い」、「疲れる」と方々から声が上がっていましたが、全てのグループが30分ほどで火をつけることに成功しました。「昔の人たちはすごい」「火をおこすことがこんなに大変だったとは…」火おこしの大変さを身を持って実感し、改めて先人達の知恵に驚く時間でした。



まずはお手本



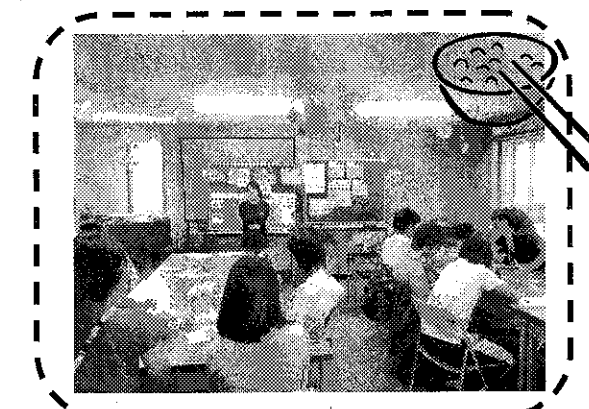
いざ実践

点いた!

6月26日(火) 2日目

午前の「玄米から私たちの食を見つめなおす」では、白米と玄米の食べ比べを行いました。玄米は生徒にとって馴染みがないものでしたが、美味しいとおおむね好評。その高い栄養価を知り、「ぜひ家庭にも勧めたい」とすっかり気に入った生徒も出たほど。
午後の「寿司の秘密」では、寿司のルーツを探るクイズなどから寿司の歴史を学んでいきました。寿司と一口に言っても実に様々な種類があることや、紹介される誕生秘話に生徒は感心し通し。なれ寿司を例に、魚を発酵して作られたものもあると紹介し、授業をまとめました。

続く「漬物を通して発酵食品の豊かさを知る」では、前授業を引き継ぐ形でスタート。まず発酵食品が身近なものであることを理解。続いて、発酵によるメリット(旨味が出る、保存性がある、腸を健康に保つ)を学びました。実際に全員でキュウリの塩漬けを作り、旨味を舌で確認しました。



2日目の授業のまとめでは、栄養の偏りが身体に及ぼす影響について押さえました。これは普段、栄養バランスが充分であるとは言いきれない生徒にとっては耳が痛い話? 3人の授業者は私達の健康を食から見直す大切さを伝えてくれました。

6月27日(水) 3日目

「手作り楽器で演奏しよう!」ではペットボトルでオカリナを作り、グループごとにリズムを取るところからスタート。演奏のこつをつかんだ生徒は様々なアレンジで吹いていました。続いて音楽鑑賞に移ります。ここでは雅楽と琉球音楽を聴き比べ、音の並びを確認します。音の構成を少し変えるだけで大きく雰囲気が異なることがわかりました。
授業の最後には授業者の出身地・岩手県に伝わるさんさ踊りを体験。さんさ踊りも先ほど学習した雅楽と似たような音の構造ということもわかりました。振り付けを教わり、一斉に踊ります。普段、みんなで踊るという体験が無いので新鮮なものでした。一見、踊りが苦手そうな生徒も輪の中で楽しそうに踊っていた姿が印象的でした。



さんさ踊り

4日目、5日目は、学生によるレクリエーションや食育が行われました。レクでは少し先取りして七夕にまつわる内容でのチーム対抗戦を展開。食育ではオリジナル寿司作り。学習してきた栄養バランスを考えながら美味しく作ることを全体で心がけました。皆分担しながら手巻き寿司完成です。

こうして年度1回目学生週は無事に終了。初めて参加したという生徒も4名いたのですが、すっかり学生さん大好きに「早く次の学生週にならないかな〜」、早速、このような声が聞こえています。大学生の皆さん、ありがとうございました。(寺田記)

◆ ◆ 教師塾 ◆ ◆

教育大学釧路校の学生とは、実習に併せて授業検討会/2回と教師(志望の準備塾/金曜)を行っています。今回は、火曜に事前学習として①自由が丘の理念②教育活動経過(含む先輩学生実践)を伝え、③特に今の社会=大人が志向する子育て・教育観をどうみるかを考えてもらいながら、④生徒達との実習具合をレポート化してもらいました。金曜日、それらを参考に学生同士で、保護者の願う教育観を比較・説明づけながら「学ぶとは、本物の教育とは何か」を交流しました。

(以下、学生レポート紹介。数字は上記項目に即して..)

~ . ~ # ~ . ~ b ~ . ~

- 3年生/片岡さん~「寿司の秘密を探ろう」担当
①改めて自由が丘学園がどのような所かやそこでの学生の役割を考えるきっかけとなった②学びには知識だけでなく経験的なものも含まれる..生徒と一緒に疑問をもち解決していくことが大切③子ども達の置かれている競争環境を再考したい④生徒は感性が深い。
- 3年生/沼田さん~「手作り音楽で演奏..」担当
①大学に入り「本物の学び」を知ったので、ここで学べるのはうらやましい②思いを伝えるのは難しい..子ども達の考えは自分の範疇を超えている事もある③社会全体を変えないと教育の抜本改革にならないのでは..④生徒達が互いの個性を認め合う雰囲気が良い。
- 2年生/瀧澤さん~「火おこしから原始..」担当
①“人間形成的教育”という言葉に深い意味を感じる②事前準備も大事だが、直接交流した中から見える気付きものをどう組み込めるか④異学年集団だからこそ思いつくことの出来る意見や発想が面白い。
- 2年生/小林さん~「食について/玄米..」担当
①大人と子どもが共に作り上げていく場ということ②私が素直になって接しないと始まらない③自分達の生活につながる力をつける事が教育として大事なのは..④子ども達の成長が楽しみ、今後も共に成長したい。
- 2年生/松本さん~「発酵がもたらす食の..」担当
①「子どもが主体」という事はスクール授業を見ても感じる②「子どもと向き合う」というのは、どこまでやれば良いのか、範囲が難しい③親は我が子のためと高学力志向するが最善なのか④今回授業する勇気を踏出した。
- 1年生/子どもからの企画も(遠藤)、体験+授業者の意図が伝わる授業(佐々)、改めて子どもっていいな(堀井)